

洋書輸入協会会報

VOL. 24

NO. 9

(通巻281号) 1990年9月

理事会報告

7月26日(木)

(一) 懇談会

会員へ送付する「開催のお知らせ」(JBIA No.612)の案を検討の上、承認した。懇談会について総務委員会で具体的に検討することとなった。

(二) 第11回国際英語教材展

10月27日(土)28日にお茶の水スクエアC会館で開催される同展に後援の要請があり、この要請に応じることとした。

(三) ブック通関

東京税関東京外郵出張所の要請にもとづくブック通関事後処理扱いについての会員への「お願い」(7月12日付けJBIA No.611)を承認した。同出張所の人事移動については「会報」8月号に掲載することが報告された。

(四) ドイツ図書展

7月13日付けで小林理事長代理が主催者であるAusstellungs- und Messe-GmbH des Börsenvereins des Deutschen Buchhandels 展示部のHans-Michael Fenderl氏あて協力する旨返事を出したことが報告された。

(五) メンバー・リスト

山川隆司渉外委員長の提案により海外へのメンバー・リストの送付は宣伝費と考えて無料とし、普通便で送ることとした。

(六) 事務局の夏休み

8月1日—7日事務局の休暇とすることとなった。

(七) その他。

海外ニュース

「リーダーズ・ダイジェスト社がD&C社を買収」

イギリスの一般書と参考図書の出版社で、イギリスでは指折りのブッククラブのリーダーズ・ユニオンのオーナーでもあるDavid & Charles社は、アメリカのReader's Digest Associationに買収されることになった。この買収話は両社間で友好的に進められてきたが、その金額は1,700万ドルにのぼるものと見られている。

すでに、David & Charles社の株主のうち64%は、Reader's Digest社のオファーを受け入れている由。(PW.7月6日号その他より)

—(株)紀伊國屋書店提供—

理事会報告	1	東京の坂と橋と文明開化(6)	5	総代理店ご案内	7
海外ニュース	1	文化厚生委員会だより		広告	8
洋書輸入協会史(55)	2	第23回箱根囲碁会	6		
よこめし・たてめし(14)	4	海外ニュース	6		

洋書輸入協会史 (55)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

58 昭和32年(1957)年度(s32.4月～s33.3月)の規約改正、理事改選、新入会員、退会者など(前号よりの続き)

58.4 新入会員(前号よりの続き)

(2) 北尾書籍貿易株式会社

大阪市西区阿波堀通り1-49 阿波堀ビル

代表者 北尾精造 創立 昭和31年10月24日

資本金 200万円 従業員 10人

昭和32年5月13日付 海輸第15号により会員に通知

代表者の北尾精造氏の祖父は、明治12(1879)年に大阪で朝日新聞を創刊した村山龍平の友人であり、かつ同紙の大阪における売捌元を託された北尾融三郎氏である。

昭和31年、科学技術関係の洋書を中心に北尾書籍貿易が設立され、後に阿波堀ビルから新朝日ビルへと移転し発展を続ける。創業時のメンバーで現在に至るまで活躍中の業界の有名人には、大阪に岡田光雄氏が、東京に野田耕平氏がいる。

(3) 内外交易株式会社 東京都港区芝罘平町10

代表者 山縣有光 創立 昭和28年6月25日

資本金 200万円 従業員 10名

昭和33年1月30日付、JBIA No.2により会員に通知

代表者であった山縣有光氏(故人)は、陸士、陸大卒。戦前にはドイツ大使館付武官補佐官、参謀本部ドイツ班長、侍従武官、飛行連隊長などの要職を経ておられる。終戦後は公職追放の苦難に堪えつつ実業を修得、昭和28年に内外交易を設立されたが、洋書の総代理店にビザフォンなどのドイツ関係が多かったのも自然の成り行きであろう。また得意先には防衛庁や自衛隊関係が多く、これに山縣氏の専門知識が加わって、地図、地理書や軍事学書の取り扱い量が増大し、これは今日なお同社の専門分野として著名である。

元帥山縣有朋の直系には軍人の後継がなく、有朋の懇請によって息女の三男であった有光氏が軍人となり、養子となって山縣姓を名乗り、男爵に叙せられていたもの。

(4) 株式会社有隣堂 横浜市中区伊勢佐木町1-22

代表者 松信総次郎 創立 明治42年12月

資本金 3,950万円 従業員 150名

昭和33年1月30日付、JBIA No.2にて会員に通知

横浜の有隣堂はあまりにも有名である。現社長の松信泰輔氏は、昭和52年に、日本書店組合連合会の第四代会長に就任、山積する業界の問題と取り組みつつ今日に至っている。

(5) 株式会社 三善

東京都千代田区大手町1-6 富士銀行本店6階

代表者 遠藤俊彦 創立 昭和26年5月30日

資本金 100万円 従業員 5名

昭和33年2月17日付、JBIA No.3にて会員に通知。

同社は戦後の財閥解体に伴い、旧安田保善社の出身者により、昭和26年に創立されたもの。機械関係、紙関係と共に洋書輸入も始められ、上記の従業員5名は洋書関係のみの数である。代表者の遠藤氏が同業会に顔を出されたことはなく、当時の取締役で、昭和40年代初めに社長となられた大久保利康氏が当初から采配を振っておられた。同氏は今NHKの「翔ぶが如く」で、全国の注目を集めている明治の元勳大久保利通の孫である。

同社はその後順調に発展し、昭和35年には安田生命ビルへ、昭和39年には現在地へ引っ越し、花巻と高崎に工場を持って全従業員は200名に及んでいる。現在の洋書関係者は、うち15名前後であろうか。

58.5 退会者

本庄商会(神戸)

昭和32年(1957)年5月23日付、海輸第17号により、本庄商会の退会の件が会員に知らされた。

(注) 旺文社退会の記録の件

洋書輸入協会会報Vol.23 No.11(1989.11月号)所載、協会史(47)の55.3項で、昭和31年度の退会者として旺文社を記したが、その記事の中に同社の退会に関する文

書が残されていないと書いた。しかしその後、昭和32年5月13日付、海輸第14号の最後に、「尚会員旺文社より退会の申出がありましたから御了承下さい」という記事を発見したのでここに付記しておく。ただし同社の退会は実質的に昭和31年度内と思われるので、退会時期はそのままとしておく。

58.6 会員数

昭和31（1956）年度末（昭和32年3月末）現在の会員数が46社であり、昭和32（1957）年度の新入会員が5社、退会社が1社のため、差し引き昭和32（1957）年度末（昭和33年3月末）現在の会員数は、50社である。

58.7 大竹博吉氏逝去

ナウカ株式会社の創立者であった大竹博吉氏が、昭和32年4月付で代表を退かれ会長となられたことは前述したが、その大竹氏が昭和33（1958）年1月22日に逝去された。

同氏は岡崎の生れ、既に新聞記者であった大正7（1918）年、ウラジオストックに渡り国立極東大学に学ぶ。その後も新聞記者として、或いはソ連研究者としてたびたびモスクワを訪れ、メジクニーガとの交渉も持っていた。昭和に入り、ロシヤ問題研究所を作り、これを閉じて、昭和6年第一次ナウカ社を創立、ソ連書籍の輸入販売と出版事業を行った。

昭和11（1936）年、官憲に逮捕され、投獄、第一次ナウカ社も閉鎖されたが、戦後第二次ナウカ社を設立し出版事業を行った。しかしやがてこれを閉鎖、次いで、昭和27（1952）年に第三次ナウカ社を設立し、ソ連書の輸入、販売を再開した。生涯を通じて著書も多い。（大竹博吉・遺稿と追憶。1961年ナウカ株式会社内大竹会発行より）

同氏は若い頃は熱血漢であつたらしい。しかし洋書輸入の同業者として何度かお目にかかった限りでは、温顔かつ謙虚、その中に泰然自若とした蕊を感じさせる人柄であった。

58.8 丸善桜井喜代志氏、理事会に出席

昭和32（1957）年7月16日の理事会から、アメリカより帰国した丸善の桜井部長が、理事長代理として出席す

るようになった。

58.9 同業会の懇親旅行

同年6月27～28日にかけて一泊で、同業会として上総木更津温泉ホテルに行き、懇談会と懇親会を開催した。翌日は木更津海岸で簀立て遊びを行った。参加16社、17人。

59 昭和32（1957）年度のその他の出来事

59.1 関西の同業会との懇談

6月21日、大阪において旭屋・早嶋・二階堂氏、梅田、山内氏、独亜、坂本氏、緑、丹羽氏、北尾書籍貿易、北尾精造氏、北尾書店新社、山田氏、海外書籍貿易、柿谷氏の他会員外の同業者も多数出席の上、懇談会が開催された。これに日本洋書販売配給の渡辺、槌田氏が出席、活発な論議が行われ、その状況が6月25日の理事会に報告され、東京においても関西の状況が熱心に検討された。

59.2 フランス・フラン切り下げ

同業会は昭和32（1957）年8月15日付の海輸第30号で、フランス・フランの切り下げを次のように知らせている。

記

仏・フラン貨切り下げについて

8月11日以後フランの実質切り下げのことは新聞紙上に御承知のことと思いますが、英蘭銀行の対フランレート切り下げに伴い日銀においても昨14日、100フ ¥ 86.01とレート切り下げの発表がありました。当分はフランの不安定な状態が続くものと思われます。（以下略）

この切り下げにより、ある一社を例にとってフランス書の書籍の換算率を調べると、1Fr.Fを1円から1円30銭の間で換算している。

59.3 フィンランド・マルカの公定為替レート切り下げ

同業会は昭和32（1957）年9月16日付の海輸第35号で、フィンランド・マルカの切り下げを次のように知らせている。

記

既に新聞紙上で御承知の通りフィンランドのレート切り下げが発表されました。即ちフィンランド中央銀行が15日発表したマルカ・レートの切り下げは、対米1ドルにつき231マルカから320マルカへと、39.1%の大幅なもので、さる8月10日の仏フラン実質20%切り下げ以来、

噂の絶えなかった欧州通貨再調整の動きが初めて具体的に現われたものとして注目されています。

しかしこれを皮切りとして他の欧州通貨が直ちにレート再調整に乗り出すことは、今の所先ず考えられないようです。(以上)

59.4 1958年の外国雑誌カタログ価格換算率

昭和32(1957)年の秋に出された外雑カタログ価格の換算率を、ある一社を例にとってみると、\$…¥430.一、£…¥1,260.一、DM…¥100~105、F.Fr…¥1.10と

なっている。

59.5 英ポンドの建値に変動あり

従来英国書籍販売に際しての売価換算率は、(1 Sterling Pound…¥1,100.一1 Shilling…¥55.一)の場合と¥1,200.一(¥60.一)の場合とが多かったが、諸物価上昇の折柄事務量軽減の目的もあってか、昭和33(1958)年1月頃から最大手書店が¥1,100.一(¥55.一)の換算を廃止し、他書店も逐次これに追隨した模様である。

(続く)

よこめし・たてめし(14)

食前酒も飲んで、さていよいよ食事が始まることになる。その時に、ちょっと気にしなければならないことに、その「量」がある。

これをお読みななる方が、若く健康で、人並以上の食欲を誇る方なら、これから申しあげすることは、それこそ杞憂と言うべきかもしれない。しかし、平均的な日本人、或いは、少々お年を召した方にとって、欧米人と同じ食事量をこなすことは、時としては「苦痛を伴う」ものとなること、身に覚えのある方もいらっしゃるのではあるまいか。

イタリーのレストランで、アンティパスタ(前菜)の二・三品を美味しくいただき、次のパスタ料理を、「ボク麺類大好き!」とバクついて、「フーッ」とお腹をさすったところで、これからがメインディッシュ、といわれて、ぎょっとした人も何人かいることと思う。

もっとも、ひと昔前とは違い、今では、東京にありとあらゆる国の料理を扱うレストランが出来、そのおかげで、我々も一応事前のリサーチが出来るようになった。でも、そのような店は、ある程度我々の胃袋に合わせて量の調整をしたり、あるいはコースの設定をしているようである。だから、うっかり東京なみの感覚でいると、本場ものの「量」に圧倒されることになる。

実際、彼等欧米人が本気で喰べるのにつきあったら、

平均的な日本人は音^{おと}をあげるのに違いない。かといって、だされたものを半分以上残したり、全然手をつけなかったりしたら、相手にとって失礼であるし、また会食そのものの感興が損われることになる。

だとしたら、いっそのこと食事の前に「私は普段から少食なので、普通の半分の量にしてくださいませんか。」とでも頼んでしまう方が良いかもしれない。この場合「少なめに」とか「ちょっと減らして」というような曖昧な表現は避け、はっきり「Half portionで」と頼むことである。

独りで外国のレストランに入って、こう頼む時は、値段の問題がからんでくるので、少しばかりややこしいことにもなりかねないが、ここでは、外国の取引先に招待されての食事という設定だから、その点は気にすることはない。

そして、もしその「半量」が、あなたの期待していたのより、ずっと少ない半量で、会食が済んでもなお空腹を感じるようであれば、ホテルに帰ってからインスタント・ラーメンでも啜ればよいのであって、この場合、黙っていたばかりに超ボリュームの食事と悪戦苦闘し、「どうも御馳走になりました」と会食相手に礼を言うのもやつの状態でホテルにたどりつき、ふうふう唸りながらベットにひっくりかえるのと、どちらがよろしいか。それは、あなたの選択である。「つづく」

東京の坂と橋と文明開化 (6)

『小さな水郷』の築地〔3〕私立学校の誕生

丸善・本の図書館 鈴木陽二

寒橋（明石橋）という美しい名の橋が、築地川の川口に架かっていた。橋を渡って明石町に入ると、江戸時代、鉄砲州と呼ばれたこの界隈の一角、今の聖路加病院の辺りに中津藩奥平家の中屋敷があった。中津藩士福沢諭吉が藩士子弟の教育を命じられてこの中屋敷に入ったのは安政5年（1858）のことであった。その時の彼の自信と軒昂たる意気は『福翁自伝』でみることができるが、ここに開設した私塾が「慶応義塾大学」の源となる。いまは聖路加の前に「慶応義塾の発祥の碑」が見られる。この慶応義塾を嚆矢とし、築地に居留地が開かれると、主としてキリスト教主義の私立学校が次々と生まれた。それらは現在の青山学院、関東学院、明治学院、立教大学や、また、工学院大学などに発展し、それぞれ長い歴史を誇りながらいまも優れた教育活動が続けている。これらの学校の沿革は別の機会に譲り、ここでは、「茶畑の中に咲く虞美人草のよう」（内田魯庵『読書放浪』）に居留地を彩ったある学校の物語を紹介したい。

明治17年に「欧文正鵠学館」という英語塾が居留地に開校した。「お雇い外国人」のジェームズ・サマーズによって創設されたもので、俗にサンマー学校と呼ばれていた。小山内薫の『大川端』に、柳橋の芸者が英語を習いに築地のサンマアスへ通っているというくだりがあり、また、谷崎潤一郎も英会話の勉強に通ったことがあって、彼の自伝『幼少時代』でその頃を回想する。学校はサマーズ夫人と「艶姿ゆたか」な異人の姉妹が先生で、西園寺、大久保などの名門の子弟、犬養毅、斎藤実夫妻、内藤湖南、異人の娘をハリに通ったという羽左衛門、梅幸、福助などの歌舞伎役者のような名士や著名人ばかりではなく車夫や配達夫まで押しかけ、鹿鳴館時代の英語熱を反映して一時は2,000人の生徒を数え、警官が整理に出た程の盛況であったという（昭和女子大学『近代文学研究叢書』2）。

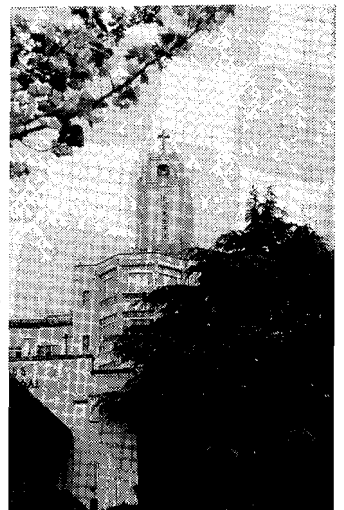
ところで、ロンドン大学の教授として後の駐日公使アーネスト・サトウなどを教えたジェームズ・サマーズ（James Summers 1828—1891）は、岩倉具視と親交があって英文学・英語学の教師として招聘され、明治6年

より開成学校（後の東京大学）で教鞭をとることになった。これは日本で初めての英文学講座の開設であったし、シェイクスピアの講義もサマーズが最初であったという。開成時代の生徒井上哲次郎は外山正一や矢田部良吉と共に『新体詩抄』（明治15年丸善刊）をあらわし、伝統的な詩歌を離れて全く新しい形式の詩を創りだしたが、この新詩の創造にサマーズの英文学の講義が影響したものといわれる。さて、サマーズは開成学校の任期が終わってからも、札幌農学校（後の北海道大学）などで教鞭をとり続け、その10年に及ぶ教育活動を通して、黎明期における日本の英文学・英語学の発展に大きな足跡を印した。そして、明治24年、63歳の生涯を異国日本で閉じる。

サンマー学校はその後夫人と6人の娘達で授業が進められたが、華やいだ令嬢達もつどって時には社交クラブのようなものとなり、そして、1年程授業が行われなかったという理由で明治41年に閉鎖を命じられる（重久篤太郎『お雇い外国人』5）。開花の東京を魅了し賑わしたサンマーはこうして廃校してしまう。

文明開花で華やかだった築地も、明治32年の条約改正によって居留地が廃止されてから、その役割を終えたかのように寂れて行く。

いま、築地や佃島の隅田川河畔はウォーターフロントの再開発が進められていて、空に伸びてゆく高層建築群にかつての居留地の面影を求めることは難しい。しかし、聖路加の屋塔を見ながらポプラ並木の通りを逍遙する時など、思いなしか築地にはいまでも異国情緒を感じることができる。



「鐸鳴らす路加病院の遅ざくら……」北原白秋

第23回箱根囲碁会

囲碁同好会が毎年7月に催す箱根の碁会が今年も7月7日の土曜から翌日にかけて、湯本の「ますとみ旅館」を会場として行われた。

集まるもの22名。長年指導の労をとって下さる時本先生は、仕事先の札幌から当日羽田経由で会場に駆けつけて下され、一同を感激させた。

駆けつけるといえば、楯、前橋の両氏も早朝からの釣りの成果、若鮎六十尾余をアイスボックスにいれて、日焼けした顔で会場に現われた。ところが生憎、旅館の方が人出不足でこの鮎を夕食の膳に供することが出来ないとのこと、やむなくその美しい姿態を觀賞するにとどまった。

さて肝心な棋戦の方であるが、予選二局を勝ち抜いたものが本戦トーナメントに進出するという形で行われ、はやばやと予選落ちの決まった連中は「これで気楽に打てる」などと負け惜しみを言いながら、やはり好きな道として盤側を離れない。

夕方からは楽しい会食。時本先生が重い思いをして北海道からもってきて下さった素晴らしい吟醸酒もあり、一層歓を深めた。長い間、文化厚生委の世話役として犬馬の労をとって下さった武田氏が、三洋出版貿易をやめられたので、お礼の心をこめての宴となったが、本当に有難うございました、と感謝の意を表わさずにはいられない。

夕食の後もひきつづき碁が打たれトーナメントの勝敗も決まった。麻雀の卓を囲む者もあり(碁は打てないが、その方なら、と参加された方もあって)一同夜のふけるのも忘れて興を尽くした。トーナメントの結果は次の通り。

優勝：中岳(三洋)

2位：長嶋(洋販)

3位：荒木(OB)

特別賞：渡辺正廣(洋販) — 最多出場賞

(K.S.記)

「マクミラン社がケーター社を
支配下に」

アメリカのMacmillan Inc.は、イスラエルのKeter Publishing Houseの株式の51%を取得した。このKeter社はイスラエル最大の一般書出版社で、また同国最大の書店チェーンを所有し、印刷所をも経営している。

KeterとMacmillanの関係は、「エンサイクロペディア・ユダイカ」全16巻のアメリカ版をMacmillanが出版したことから始まる。ヘブライ語での出版では世界最大で、美術と考古学にとくに強いが、今後は科学技術書の翻訳出版を集中的に行う部門を新設し、この方面にも力を入れて行くとのこと。

新しい経営陣には、ロバート・マックスウェルと息子のイアンなどが加わった。(PW.7月6日号より)

「エルゼビアがクルワー一株を売却」

オランダのElsevierは、出版の質の点でも売上の面でもほぼ肩を並べるライバルのWolters Kluwer社の株の約33%を保有していたが、このほどこれを売りに出すことになった。こんなに大量に保有していたのは、1987年にElsevierがKluwerを買収しようとしたからである。この買収の試みは失敗し、KluwerはWoltersと合併した。

この株の売却によりElsevierは約3億5千万フローリンの利益を挙げることになるが、これを資金としてアメリカの有力出版社7社ほどを買収しようとしているとのこと。また、Kluwerの買収もまだあきらめたわけではない由。(The Bookseller, 6月22日号より)

「アンウィン・ハイマン社買収さる」

1986年にAllen & UnwinとBell & Hymanが合併してできたUnwin Hymanは、年商約1600万ポンド程度で従業員200人の、今では残り少なくなった中堅独立出版社であるが、この7月に英米にまたがる出版コングロマリットのHarper Collinsに買収された。この買収によってUnwin HymanはHarper Collins U.K.に吸収される形となるが、社名が残るかどうかは未決定。またUnwin Hymanの従業員のうち120人ほどは職を失うことになり

そうである。英出版社の中でもとりわけすぐれた出版活動を行ってきたUnwinの消滅を惜しむ声が大きい。
(PW, 7月20日号他より)

「ブッフエキスポート活動停止」

これまでドイツの出版物の輸出業務を独占的に取扱ってきた貿易公社Buchexport社は、7月19日付の取引先宛同社書簡によれば、このほどその業務の一切を停止した。その理由は明らかにされていないが、言うまでもなくこのたびの政変の影響である。

ここ1、2カ月のオーダーで未処理のものは返却され、今後は個々の出版社に発注するよう受注先一覧表が添付されてきた。

一方西ドイツの取次店や配給業者は、次々に東ドイツの出版社と契約を結び、取扱いを開始している。たとえば、ギュータスローのVVA Bertelsmann Distributionは、文学書の出版で知られるAufbau-VerlagのほかKinderbuchverlag, Altberliner Verlagを、また、シュトゥットガルトのKunst und Wissen Bieber GmbHは、東ドイツ最大の総合学術出版社Akademie-Verlagの出版物の販売、配給を引き受けることになった。またVerlag Technik, Verlag für Bauwesen, Henschelverlagは西ベルリンのVAB Verlagsauslieferung Jagerが引き受けるとのこと。

西ドイツの大取次店は、いずれも、東ドイツの出版物を何ら西ドイツのものと差別することなく取り扱うと発表している。

(Börsenblattフランクフルト版8月3日号他より)

—(株)紀伊國屋書店提供—

総代理店ご案内

㈱マクミラン出版社 Tel.: (03) 816-3756/7

下記の通り日本総代理店が決定致しました。

代理店名: 株式会社紀伊國屋書店
丸善株式会社

Title: Vision and Visual Dysfunction (全17巻)

出版社: Macmillan Press, UK.

出版年月日: 1990年11月刊行予定

概価: ¥450,000

三洋出版貿易㈱ Tel.: (03) 669-3761

VCH Verlagsgesellschaft (DEU)

Hummel / Scholl

Atlas of Polymer and Plastics Analysis, 3rd Edition
in 4 Volumes

高分子、プラスチックの赤外線分析スペクトル集

Volume 1: (1990/11) Defined Polymers.

Approx. 1200pp. 3400 Spectra

予価¥80,600 (全巻予約) ¥97,500 (単冊)

Volume 2: (1991) Technical Polymers: Plastics,
Fibres, Rubber Resin

Volume 3: Additives and Processing Aids

Volume 4: Physical and Chemical Methods

ユサコ㈱ Tel.: (03) 502-6471

J. B. Lippincott Company (U.S.A)

.....All periodicals

第22回 洋書まつり'90

洋書輸入協会主催合同セール

と き 1990年10月19日(金)・20日(土) 10:00~18:00

ところ 東京古書会館 千代田区神田小川町3-22 電話 03-293-0161
当日直通 03-295-2828

(国電・お茶の水駅、都営地下鉄新宿線・神保町駅または小川町駅下車)

生

化

学

ローン著

ニュー
テキストブック
御 案 内

Biochemistry

by J. David Rawn

CONTENTS

- Part One
Introduction
- 1 The World of the Cell
 - 2 Water
- Part Two
Protein Conformation and Function
- 3 Amino Acids and the Primary Structure of Proteins
 - 4 Fibrous Proteins
 - 5 The Conformations of Globular Proteins
 - 6 Hemoglobin and Myoglobin: Oxygen-Binding Proteins
 - 7 Enzyme Catalysis and Enzyme Kinetics
 - 8 Activation of Digestive Enzymes and Coagulation Factors
 - 9 The Structure of Biological Membranes
- Part Three
The Generation and Storage of Metabolic Energy
- 10 The Design and Regulation of Metabolic Pathways
 - 11 Bioenergetics: The Significance of the Hydrolysis of ATP and Other Energy-Rich Metabolites
 - 12 Glycolysis
 - 13 The Citric Acid Cycle
 - 14 Oxidative Phosphorylation
 - 15 Glycogen Metabolism, Gluconeogenesis, and the Pentose Phosphate Pathway
 - 16 Fatty Acid Metabolism
 - 17 Catabolism of Amino Acids and the Urea Cycle
 - 18 Photosynthesis
- Part Four
The Biosynthesis of Precursors of Macromolecules
- 19 Biosynthesis and Transport of Membrane Lipids and Formation of Cholesterol Derivatives
 - 20 Biosynthesis of Amino Acids and Related Biosynthetic Processes
 - 21 Nucleotide Biosynthesis
- Part Five
Biological Information Flow
- 22 Nucleic Acids
 - 23 DNA Replication
 - 24 Transcription
 - 25 RNA Processing
 - 26 The Genetic Code and Transfer RNA
 - 27 Protein Synthesis and Transport
 - 28 Regulation of Gene Expression I
 - 29 Regulation of Gene Expression II
 - 30 Recombinant DNA Technology
- Part Six
Molecular Biology of the Cell
- 31 Biological Membrane Transport
 - 32 Transmission of Nerve Impulses and Signal Transduction in Sensory Systems
 - 33 Contractile Proteins and the Cytoskeleton

1105頁 210×277mm

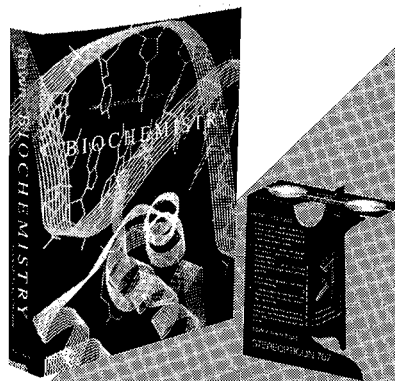
カラー写真・図版400点以上

各巻にステレオ眼鏡付

価格 [ペーパー版 8,000円 (ISBN 0-89278-405-9)]
(消費税別) [ハード版 10,000円 (ISBN 0-89278-400-8)]

在庫

生化学・細胞生物学・分子生物学の教科書はこの数年だけに限って見ても毎年数多く出版され、しかも年ごとにその内容が刷新されています。これはこの領域の学問の進歩がいかに速いかを物語るものであり、遺伝子工学や細胞工学などの手法を用いた研究が飛躍的に増加し、細胞の構造や機能についての新しい知見が次々と蓄積してくるためといえましょう。こうした状況の中で、大学の生化学教育の占める位置がますます重要度を増したことはいうまでもありません。生化学全体を基礎学問から体系的にまとめあげて教科書を作るとなると壮大な仕事になってしまいますが、この点において本書は、生化学専攻の学生を対象に、生化学の理解に必要な細胞生物学・分子生物学等の基礎を充分ふまえ、コンピュータ・グラフィックスを用いて生体分子の立体構造を極めてわかり易く解説しています。さらに最新の知見を数多く盛り込むなど、著者の生化学教育にたいする熱意と意欲がうかがえます。著者の長年にわたる研究と教育で培われた豊かな経験が、本書には見事に生かされており、日本の医学、薬学、農学、化学等専攻の生化学を学ぶ学生にとってのすぐれた総合的な教科書といえましょう。



Neil Patterson Publishers

日本総代理店 ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

1990年9月 通巻第281号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

〒103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室

☎271-6901 FAX.271-6920

〒530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル

☎371-5329